



題字 井口 文章  
再刊 第312号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2019

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：新生徒会いよいよ始動  
1・2年生視聴覚教室行われる  
錦城生に意識調査

# “発信力ある生徒会”への挑戦

## 生徒会役員引き継ぎ行われる

11月11日(月)、旧校舎6階の和室に新旧生徒会役員が集まってもらい、編集部主催の座談会を開催した。新旧生徒会役員は前期生徒会の活動を振り返り、今期生徒会の抱負について話し合った。

### 前期の活動を振り返って

前生徒会長の松本千冬くん(3B)は、今期生徒会に継続して欲しいこととして「募金活動」を、新たに頑張ってもらいたいこととして「ペットボトル自販機(以下自販機)を設置すること」を挙げた。

### 今期で取り組みたいこと

新生徒会長の橋くんは、今期生徒会でも取り組みたい課題として、多くの意見が意見箱に寄せられている制服を挙げる。今回の選挙でも3人の候補者が制服の改革を訴えていた。橋くんは女子のベスト着用、指定の靴下、コートなどの廃止も含めて検討していくという。「これらはあくまで1つの例。どれが可能か取捨選択していきたい」と話した。



約1時間半にわたって活発な議論が行われた

### 監督委員会の反省点は？

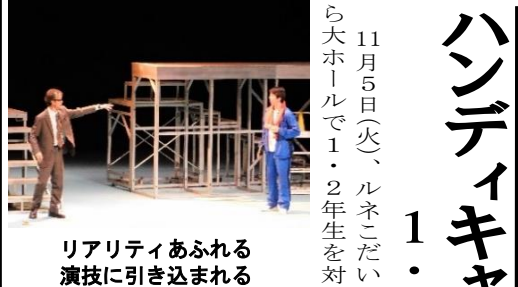
新監督委員長(前監督副委員長)の岡崎翔也くん(2B)は、前期の自身の活動について「仕事を覚えるのに費やした1年だった」と振り返る。生徒会の活動を通して学んできたことを今期に生かし、よりスムーズな生徒会活動の進行、新しいことへのチャレンジをしていきたいと語った。



自身の経験を活かし抱負を語る橋くん

また「生徒総会では、錦城生に錦城のお金の使い方を理解した上で、承認の拍手をしてもらいたい」と岡崎くん。そのため、生徒総会前の昼休みに放送などを活用し、何回かに分けて金銭管理の状況を生徒へ伝えていきたいと語った。

橋くんがもう1つ課題として挙げたのは生徒会の広報について。前期生徒会は活動内容の発信力の低さを問題としており、橋くんも演説の中で取り上げていた。前期に発行された生徒会報は計2号のみであり、教室に貼りだされていただけだったので、生徒会報を見る人も少ないと思うと橋くん。今後は毎月発行するのほもちろん、昼放送の隙間時間に生徒会の放送をしたり、SNSを活用したりして



リアリティあふれる演技に引き込まれる

## 1・2年生 視聴覚教室で演劇鑑賞

11月5日(火)、ルネこだい大ホールで1・2年生を対象に視聴覚教室が開かれ、今年度は東京芸術座による演劇「Challenging」を観賞した。



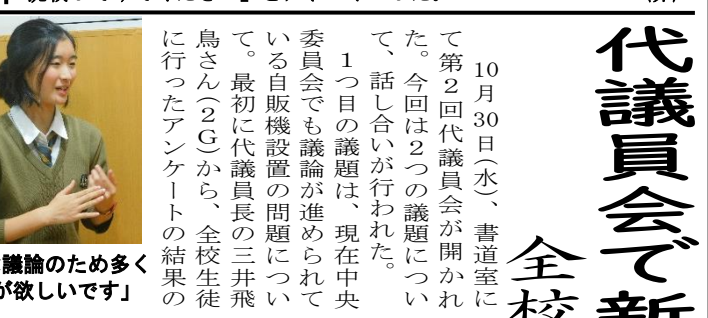
キャストさんからサインをいただきました

この演劇は視覚障害者の水泳競技をテーマに、ほぼ実話で台本が書かれている。演目にある「Challenging」とは、挑戦するチャンスを与えられた者たちという意味だ。劇中に学校校長役の崎田和子さんに

話を聞いた。自身の演技について、手塚さんは対話の場面では自然な返事ができるという。手塚さんは「失敗を恐れずに、一歩踏み出す勇気を持って青春を過ごしてください」とメッセージを送ってくれた。(燕)

## 新任 国語科に新たな風

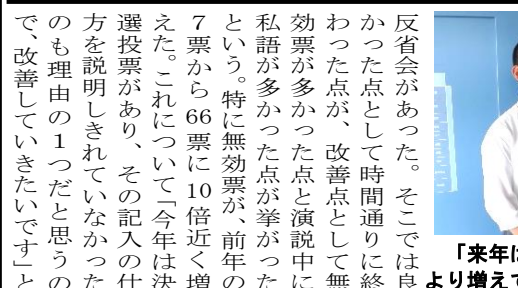
11月から1年の古典の授業を受け持つことになった国語科の浅岡佐和子先生。教師になる前は、塾の先生や博物館の案内係など多くの仕事を経験したという。そのため「色々な経験から得たことを授業で伝えていきたいです」と話した。



浅岡先生は授業で古文や漢文の授業をするときに、著者やそのバックグラウンドについても学ぶことを大切にしているそう。1000年以上前の人とも自分との共通点はあります。それを見つけて興味や親しみを持ってほしいですと語る。また錦城生に「自分がやってみなければそのものの深さは分かりません。気になったことには何でも挑戦してみてください」とアドバイスした。(卯)

## 図書室に首里城コーナー設置

10月31日(木)、沖縄県の観光名所である首里城で火災が発生し、正殿など7棟が焼失した。この出来事を受け、図書室は首里城の特集コーナーを設置。首里城について知り、支援のきっかけにしよう。

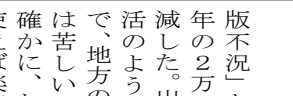


今年度度継続してまいります

今年度度継続してまいります。今年度は、前年より増えたいです。今年度は、前年より増えたいです。今年度は、前年より増えたいです。

## より「選挙」らしい生徒会へ

11月6日(水)に生徒会選挙が行われた。今回の選挙を管理委員会委員長の梅津龍くん(2E)に振り返ってもらった。選挙後、選挙管理委員会では、立候補者を増やすことが狙いだそう。また、各クラスに配布した立候補者の広報用紙の拡大コピーを、1階下駄箱前に貼るなど「選挙」の雰囲気作りにも努めた。



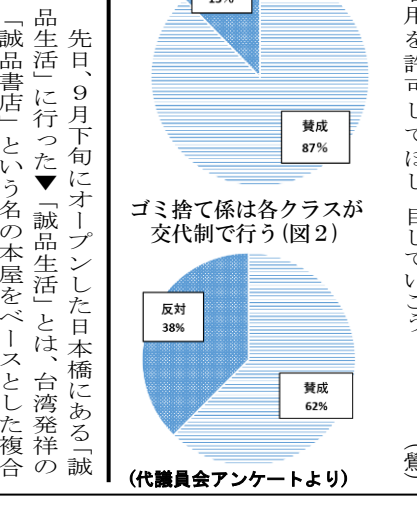
「来年は立候補者がより増えて欲しいです」

## 代議員会で新制度に向け話し合い進む

10月30日(水)、書道室に第2回代議員会が開かれ、今後の代議員会の動きについて話し合った。話し合いが行われた。話し合いが行われた。話し合いが行われた。

## 「活発な議論のため多くの意見が欲しいです」

10月30日(水)、書道室に第2回代議員会が開かれ、今後の代議員会の動きについて話し合った。話し合いが行われた。話し合いが行われた。話し合いが行われた。



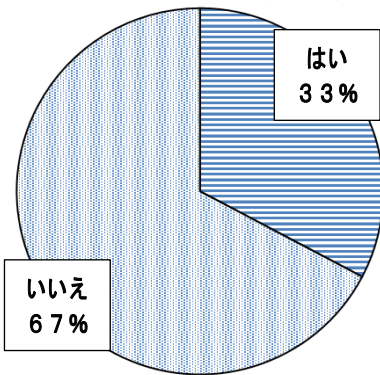
(代議員会アンケートより)

# 1、2年生にアンケート実施 共通テストへの不安、割超え

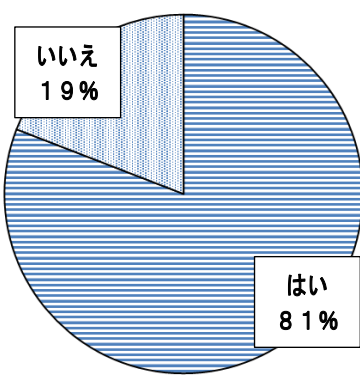
今の2年生の代から導入が予定されている大学入学共通テスト。現行のセンター試験に変わって記述式問題導入されるなど多くの違いがある。そこで1、2年生にアンケートを行い、感じていることなどを聞いた。

現在行われている大学入試センター試験に代わり、2020年度から実施される「大学入学共通テスト」。その目玉とされたのは、記述問題の導入と英語民間試験の活用だ。記述問題導入と英語民間試験の活用について、11月18日

### 記述問題の導入は国語と数学I Aのみと知っているか(図1)



### 大学生アルバイトが採点をするに不安はあるか(図2)



1・2年生を対象にアンケート実施(有効回答数841人)

や出題形式に関する疑問点や「③自己採点を正確にできるか」「④大学側の記述採点が正確か」など採点に関する不安を持つ意見が多数を占めた。

不安の声も挙がる中、政府では記述問題の採点に大学生のアルバイトを雇用するか、という議論がなされている。採点業務を請け負うベネッセグループの子会社は、国会審議にて野党からの「採点者はアルバイトを採用する予定か」との追及に「アルバイトという方も当然いらっしゃる」と答弁。これを問題視する声が多く挙がった。

「英語民間試験の活用延期について、英語科の阿部美都樹先生と神谷洋行先生により詳しく話を聞いてみた。

## 英語民間試験の活用をもっと詳しく!

阿部先生、神谷先生とも今回の延期は妥当だと話す。その理由を「入試の絶対条件は公平であることですが、今回の方式だと、家庭の経済状況や居住地によってその公平性が揺らぎかねませ

「入試はとにかく平等であることが大切」と阿部先生

最後に錦城生へ向けて、阿部先生は「新試験になってもベースになるのは単語やグラマー、リーディングといった基礎です。日々の授業を大事にすることで十分対応することができると語る。

「英語民間試験の活用延期をどう考えているか(図5)

今年度の調査結果から、共通テストについて正確に認知している錦城生の割合は低く、新入試に不安を抱いている人は多いことが分かった。来年度に迫っている共通テストだが、未だ不確定な点が多い。

阿部先生、神谷先生とも今回の延期は妥当だと話す。その理由を「入試の絶対条件は公平であることですが、今回の方式だと、家庭の経済状況や居住地によってその公平性が揺らぎかねませ

「入試はとにかく平等であることが大切」と阿部先生

最後に錦城生へ向けて、阿部先生は「新試験になってもベースになるのは単語やグラマー、リーディングといった基礎です。日々の授業を大事にすることで十分対応することができると語る。

「英語民間試験の活用延期をどう考えているか(図5)

今年度の調査結果から、共通テストについて正確に認知している錦城生の割合は低く、新入試に不安を抱いている人は多いことが分かった。来年度に迫っている共通テストだが、未だ不確定な点が多い。

## 総文祭東京大会 1000 日前イベント開催 新聞委員会編集部も参加

11月4日(月)、編集委員が江戸東京博物館で行われた第46回全国高等学校総合文化祭(※)東京大会1000日前イベントに参加した。イベントの企画・運営は東京都の文化庁の代表が一堂に集い、来たる2022とうきょう総文に向けて活動している生徒委員会によって行われた。編集委員も以前から生徒委員会のメンバーとして活動。イベント当日には、司会を務めたり、大会マスコットキャラクターの「ゆりーと」と一緒に「ゆりーとダンス」を踊ったり、他部門とのコラボレーション企画などを行った。このイベントは、朝日新聞にも掲載された(2019年11月5日)。

イベント終了後、チーフを務める生徒委員に話を聞いた。広報班チーフの岩倉高等学校2年中村優希さんは「準備に時間がかかりましたが、大成功して嬉しいです」と笑顔で話す。「ステージ上で問題もありましたが、まずは無事に終わることができて良かったです」と本番を振り返るのはステージ発表班チーフの品川女子学院高等部2年荻原紗来さん。展示・体験班チーフの女子美術大学付属高等学校2年小井土稟さんは「大きな事故などもなく、無事に終わることができて嬉しいです」と安堵の表情を見せる。3人は未来の後輩たちに改善点を引き継ぎ、より良いとうきょう総文にしたいと口を揃えた。

また、生徒委員会として携わった編集委員の栗須祐真くん(2H)は「みんなで1つのものを作り上げる難しさとやりがいを肌で感じました。2022年に向けて良いスタートを切れたと思います」と語った。(杏)

※全国高等学校総合文化祭は、全国から高校生が集結し芸術文化活動の発表を行う文化の祭典。「文化部のインターハイ」とも呼ばれる。

### 大会報告

女子バスケットボール部  
11月17日(日)  
▽新人大大会第3戦  
対清瀬高校  
56-53 3部昇格

映画研究部  
11月24日(日)  
▽第42回東京都高等学校文化祭放送部門 決勝  
ビデオドラマ部門  
『ソリストに贈る四重奏』  
第1位

『友情の答え』  
第3位

生徒会動静  
11.8~12.1  
11月19日(火)  
合唱祭実行委員会  
11月29日(金) 図書委員会

## 今年のスキーは味噌作りも

56回生のスキー修学旅行で大豆をつぶすところからでは、体験学習が選択制にな味噌を作る体験をすることができた。そこで、スキー修学旅行では来年度の7月頃、忙しい受験期に味噌作りが楽しめるのも一つの魅力だ。

市内観光では、山形市を観光して回る。戦国大名最上義光についての歴史館や旧県庁の文翔館を訪れる予定だ。陶芸では、清水焼の湯呑や器を手動の轆轤(ろくろ)で作ることが出来る。講師の方から紹介してくれる作品の中には「工夫を加えた面白いものもあり、デザインを工夫すればより楽しめるそうだ。

最後に串田先生は「5日間終日に学年全体で陶芸の体験をしている。しかし、今年は味噌作り、市内観光、陶芸の3つを増やしたかったから、素材を増やしたかったから」と話す。

味噌作りでは、発酵食品に期待を寄せた。(鴻)



「ゆりーとダンス」を踊る生徒委員



3年後の東京総文に期待を寄せる3人